

5 留学・国際交流

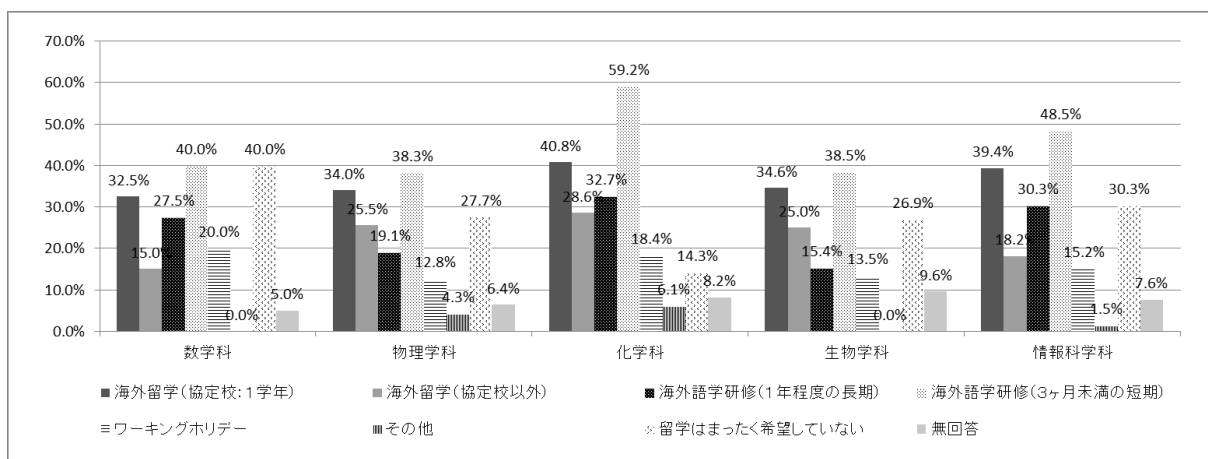
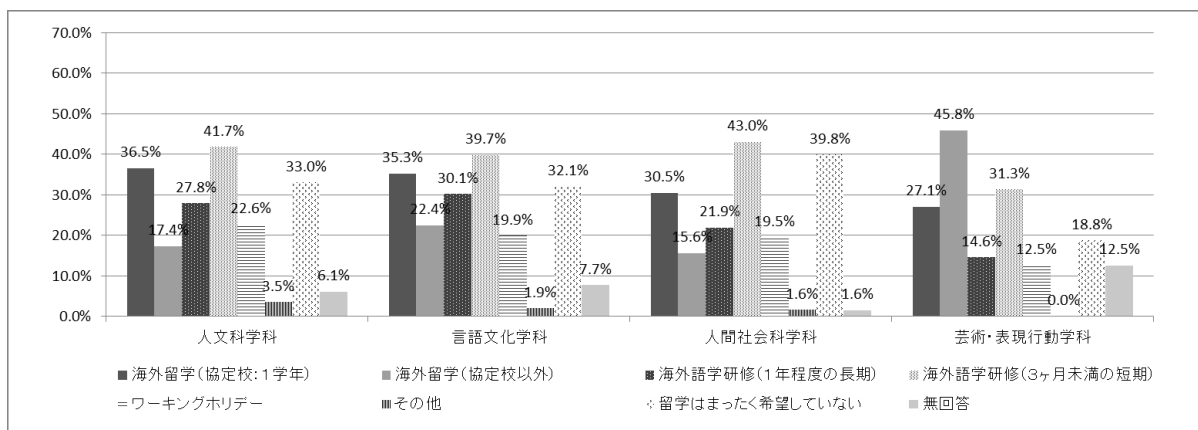
1. 留学について

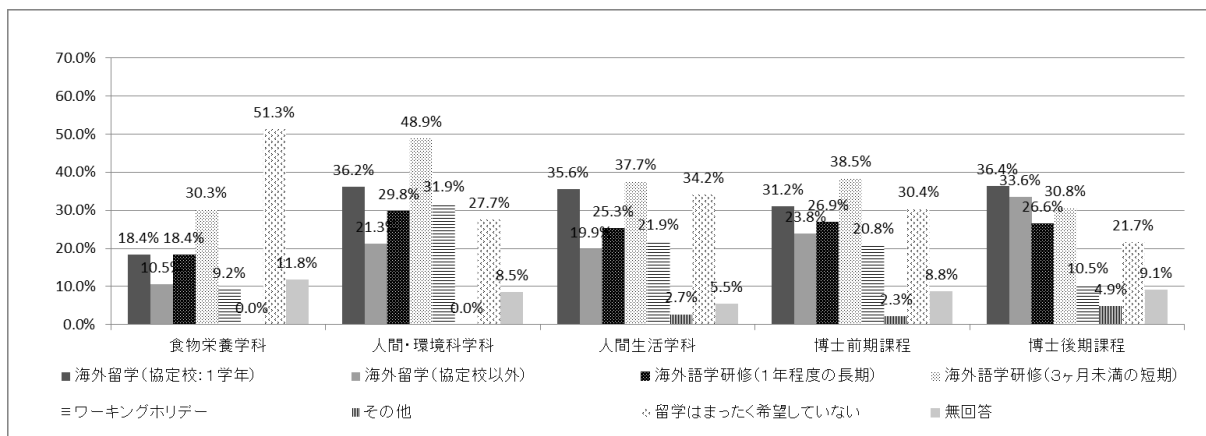
近年、留学する日本人が減少していると言われるが、お茶の水女子大学の学生は留学についてどのように考えているだろうか。関心ある留学について聞いたところ、学部生平均では、海外留学（協定校：1学年）33.5%、海外留学（協定校以外）20.7%、海外語学研修（1年程度の長期）25.1%、海外語学研修（短期）40.8%、ワーキングホリデー18.8%であり、留学をまったく希望していないと回答した者は33.0%であった。一方、大学院生の平均は海外留学（協定校：1学年）33.0%、海外留学（協定校以外）27.3%、海外語学研修（1年程度の長期）26.8%、海外語学研修（短期）35.7%、ワーキングホリデー17.1%であり、留学をまったく希望していない者は27.3%と学部生よりも割合が低かった。

この傾向は学科によって異なる（図表5-1）。たとえば、海外留学（協定校：1学年）を選択した割合は化学科（40.8%）や情報科学科（39.4%）で高く、食物栄養学科（18.4%）で低かった。一方、海外留学（協定校以外）を選択した割合は、芸術・表現行動学科（45.8%）で突出して高い。

海外語学研修については、1年程度の長期は芸術・表現行動学科（14.6%）、物理学科（19.1%）、生物学科（15.4%）、食物栄養学科（18.4%）で低く、短期研修に関しても芸術・表現行動学科（31.3%）、食物栄養学科（30.3%）、博士後期課程（30.8%）で低かった。一方、短期研修については、化学科（59.2%）、情報科学科（48.5%）、人間・環境科学科（48.9%）でとくに高くなっていった。

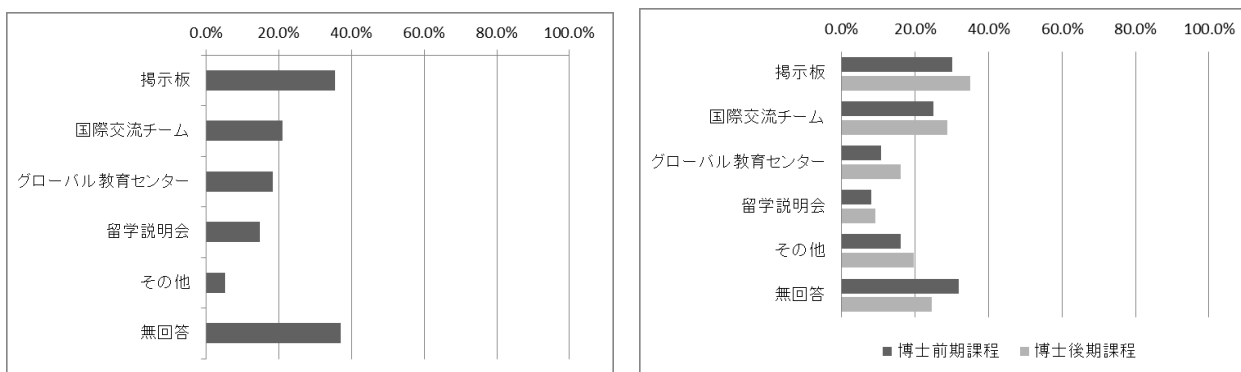
図表 5-1 留学への関心(多項選択)





ワーキングホリデーに関しては、人間・環境科学科でのみ3割を超えた。
 留学はまったく希望していない者は芸術・表現行動学科（18.8%）、化学科（14.3%）でその割合が低く、逆に、人間社会科学科（39.8%）、数学科（40.0%）、食物栄養学科（51.3%）で高かった。

図表 5-2 海外留学・研修の情報源

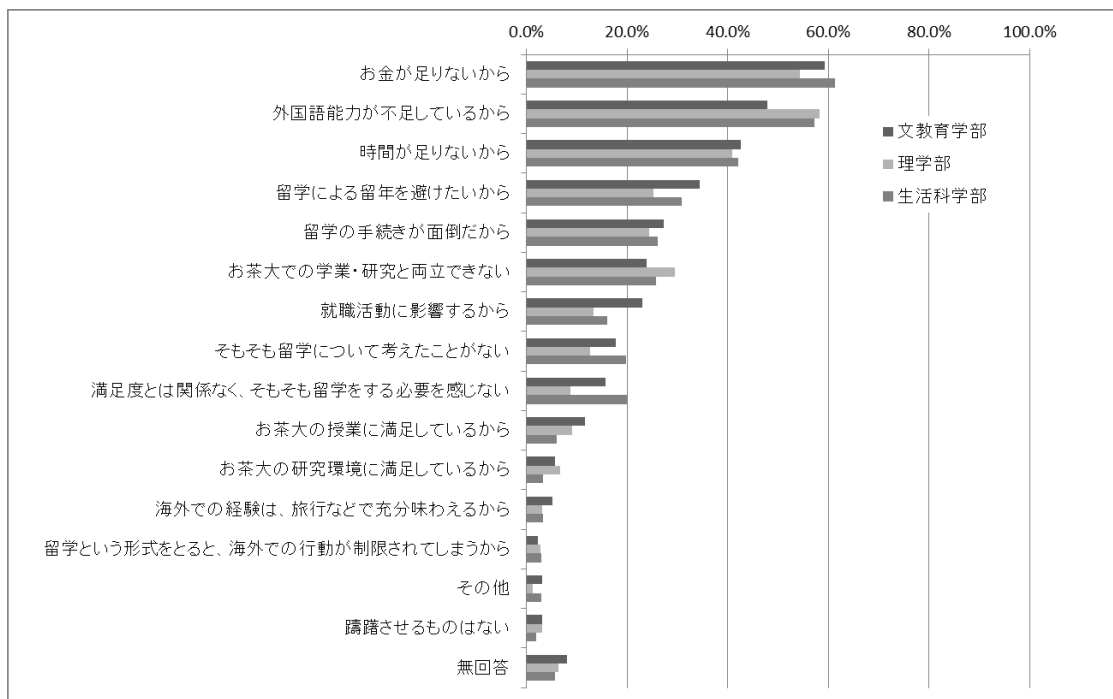


海外留学・研修の情報をどこで得るかといえば、学部・大学院ともに掲示板が3割、国際交流チーム、グローバル教育センターがそれに続き、留学説明会は1割程度であった。その他の回答として、友人、先輩、教員、生協、OchaMail、インターネット、ブリティッシュ・カウンシル、雑誌などの意見があった（具体的には付表5、6を参照のこと）。

京都大学国際交流センターが京都大学に在籍している日本人学生を対象に2008年に実施した「国際交流と留学支援制度に関する調査」では、留学したいと思ったことがない人にその理由を尋ねている。これによると「あてはまる」あるいは「どちらかといえばあてはまる」を選択した割合がとくに高かった項目は、「京都大学の教育・研究への満足度とは関係なく、そもそも留学する必要を感じないから」（71.2%）、「お金が足りないから」（70.2%）、「外国語能力が不足しているから」（67.5%）、「時間が足りないから」（63.7%）、「京都大学の研究環境に満足しているから」（63.6%）であった（京都大学国際交流センター（2009）『京都大学における国際交流の現状と発展に向けての問題提起』を参照）。

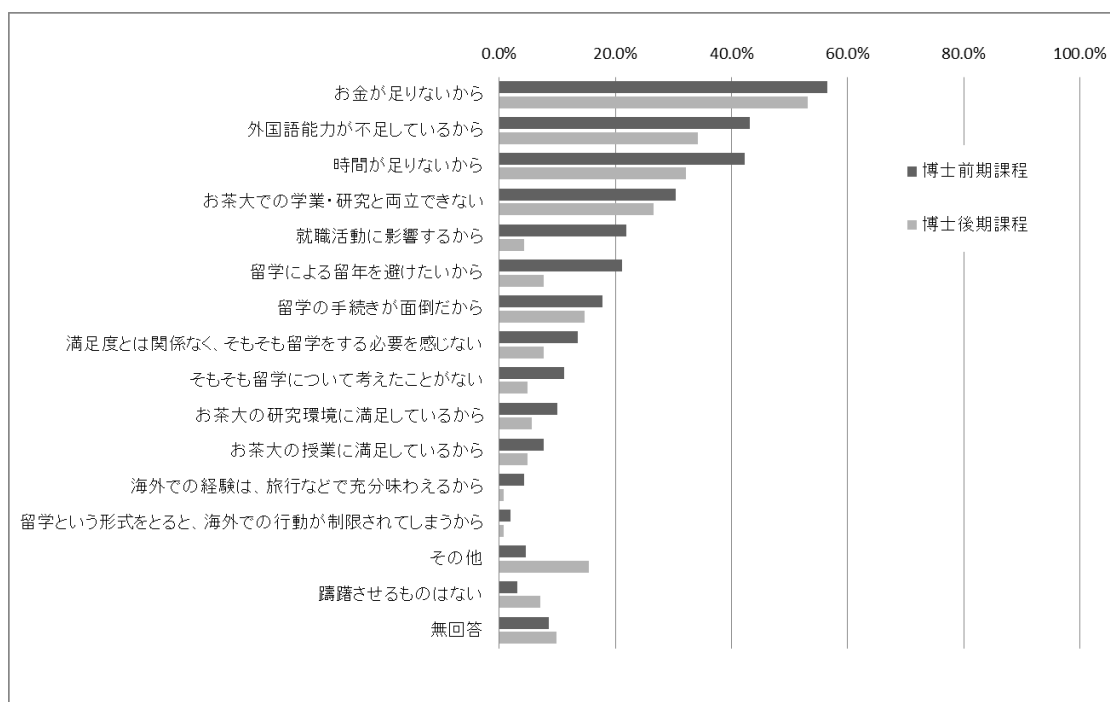
同様の項目についてお茶の水女子大学で多項選択方式で学生に尋ねたところ、学部生では「お金が足りないから」が6割、「外国語能力が不足しているから」が5.5割、「時間が足りないから」が4割となった。京都大学であてはまると回答した割合の高かった「京都大学の教育・研究への満足度とは関係なく、そもそも留学する必要を感じないから」という項目については、お茶の水女子大学では2割が選択したのみ、「京都大学の研究環境に満足しているから」については1割弱が選択したのみであった。お茶の水女子大学の調査で独自に入れた「留学による留年を避けたいから」という項目については3割が選択し、選択された割合が4番目に高かった。

図表 5-3 留学を躊躇させる要因(多項選択)(学部)



大学院生に関しては、「お金が足りないから」、「外国語能力が不足しているから」、「時間が足りないから」については学部生と同じような割合となったが、4番目に多かったのは学部生と異なり「お茶大での学業・研究と両立できない」で3割程度が選択していた。

図表 5-4 留学を躊躇させる要因(多項選択)(大学院)



2. 留学生の要望

留学生にお茶の水女子大学に留学するための情報をどこで得たかを自由回答で尋ねたところ、ウェブサイト、お茶の水女子大学に進学した友人、日本人の友人、親戚、日本語学校の教員、国際交流チーム、入試センター、掲示板、新聞、雑誌に載っていたお茶の水女子大学の教員のコラムといった回答が得られた（具体的には付表5、6を参照のこと）。

日本で生活する上で困っていることについて自由回答で書いてもらったところ、多くの意見が寄せられた（具体的には付表5、6を参照のこと）。学費や生活費といった経済的問題、アルバイトと勉強の両立の困難、奨学金の少なさ、ビザの問題、入国管理法の改正による休学の困難、住居や保証人を探す困難、学位が取れるまでの時間の長さ、日本人の学生との交流の少なさ、先輩との交流の少なさ、就職情報の少なさ、ことば（日本語）の問題といった多岐にわたる問題が挙げられた。

留学生に対する多方面にわたるより一層の支援が必要である。